

農業の世界に生きる

去年から専業農家として、アスパラガス1.8ha・水稲8ha・山うど85a・キャベツ30a・みょうが10aを家族で営む、大高勝信さん。家族の高齢化を考えて18年勤めた製材会社を退職し、農業の世界で生きていく決意を固めました。

「それまで手伝いとして農作業を行ってはいましたが、本格的に農業へ従事するのはゼロからのスタートでした。各作物の栽培の流れを覚え、トラクターなどの農業機械の操作を学び、忙しくあつと



いう間に1年が過ぎた印象です。両親や地域の農家の方々、JAの営農指導員から栽培を一から教えてもらい、勉強の毎日を送っています。」

栽培のノウハウを学ぶ

両親の大高勝さん・信子さん夫婦は、20年前にアスパラガスの栽培を始め、以来地域のアスパラガス栽培技術向上・拡大に尽力してきました。JAが毎年行っている、アスパラガスの株品評会においても、第1位を幾度も獲得するなど、その栽培技術は折り紙つきです。

「『良い作物は、良い土づくりから。』ということを両親から教えられました。特に近年は気象変動が激しいので、圃場には堆肥を4t施用して豊かな土づくりを行い、株の養成に努めています。またハウスに移した後も、温度・湿度管理に気を配って、太くて甘く瑞々しいアスパラガス作りを心掛けています。」

防除態勢と営農計画

大高さんの圃場では、1～2年で定期的な作物の回転を行っています。こうすることで連作障害を防ぐとともに、圃場の回転によって作物同士の生育に好影響が生まれています。

「どの作物でもそうですが、病害虫の防除は発生前と発生後では、品質に大きく差があります。今年のアスパラガスにおいて、アザミウマの被害が予測されたため、JA営農指導員と情報を取り合いながら防除に努めました。また促成アスパラガスは、クリスマス前が一番の需要期となるため、出荷を逆算した栽培管理を行っています。アスパラガスのほか、多品目の栽培を行っているので労力ばかりですが、安定した営農には不可欠だと考えています。」

今後の目標

国の生産調整や補助対策事業の見直し、TPP問題を巡る国内農業維持への対策など、日本農業は大変革期を迎えています。大高さんは「今は流れに任せるしかない。」と考えていますが、だからこそ『良いものを安定して作る。』という基本が大切だとも感じています。「まずは両親が確立した栽培をきちんと継承し、その上で自分なりの栽培を見出し出したいと思っています。気象の変化に対応し、しっかりと土に根を張って生長する作物のように頑張ってください。」と意気込みを語ってくれました。

